

2023年5月17日（水）

## 『 岐阜は、日本の東西文化の交流点 』

まつお出版 代表 松尾 一 様

まず、皆様の日頃の社会奉仕活動に対しまして、一市民として、お礼申し上げます。ありがとうございます。

さて、岐阜は、日本の東西文化の交流しているところであり、また、独自の文化があります。今日は、そんなことをお話しいたします。その前に、今日は、岐阜の「阜」にこだわってみたいと思います。



## 1. 「阜」にこだわってみる

みなさん「阜」は書けるでしょうか。書ける人は天才です。なぜなら、学校で習っていないからです。また、「国語辞典」には「阜」が載っていません。毎年、1月頃から、書店さんに、国語辞典が並びます。私は、書店に行きまして、国語辞典を片っ端から調べます。「広辞苑」なども調べますが、「阜」は載っていないのです。「阜」は、平成23年以前は常用漢字になっていない、特殊な文字でした。だからワープロで「阜」とやっても出てこない。全国の学校では、公式に習っていないようです。ですから、全国には、岐阜は読めない、書けない、場所が解らない人が大勢いる、ということになります。

皆様もお仕事などで関東、関西、北海道とか九州などに行かれると思いますが、大体、「岐阜から来た」とは言わないで、「名古屋の北」から来たと言うのですね。ただ、最近、北名古屋市というのができて、ちょっと言いにくくなったかと思います。

それから、これは本当のお話ですが、友達の経営者が、東京のホテルにとまって、領収証ください、「岐阜〇〇会社」と言ったら、「岐阜」の字が書けなかったそうです。

ところで、「阜」は何画でしょうか。8画です。それから、「阜」は、何の親文字でしょうか。「こざとへん」です。「丘」という意味があります。〇〇ヶ丘 とある、あの「丘」です。「こざとへん」ですから、階段の「階」とか、そういう字があります。

電話で「阜」の書き方を教える時、どのように教えたらよいでしょうか。「追」という字の、「しんによろ」（若い人。そうでない人は「しんにゅう」）を取って、その下に、和数字の十をつけます。これで「阜」という漢字になります。

「追」という字が分からない人に対しては、英語バージョンで、「コンマ、下に、B、プラス」。これを早く書くと「阜」らしくなります。

さて、「岐阜」の意味についてですが、「阜」には、丘という意味があります。「岐」には、分かれるという意味があります。

織田信長は、「岐阜」と決めたときに、私なりに説明しますと、金華山を「丘」と見立てました。それから、金華山の山麓で、長良川が幾筋も分かれているから「岐」、だから「岐阜」と名付けました。

井ノ口という名前を変えようというところで、岐阜という字もいいなということで、岐阜とした。造語ですね。

それを、難しそうに中国のなんとかと言っていますが、ある学芸員の方によれば、そのような文献はなかったのではないか、中世の文化人がひょっとして作ったのではないか、とのことでした。

信長の頃はよかったです。信長が安土に行ってから、岐阜はだんだんすたれていった。岐阜という地名も忘れ去られてしまって、皆様も苦労されていることと思います。

## 2. 岐阜独自の文化

### ① 喫茶店のモーニングサービス

岐阜独自の文化としては、まず、喫茶店のモーニングサービスです。私は、昔はチケットを四つ持って、東西南北行っていたくらい好きでした。喫茶店のモーニングサービスの発祥は一宮なのか、岐阜なのかで、もめていましたが、2023年5月13日付岐阜新聞にいい話を見つけました。昭和33年2月の「岐阜夕刊」に、以下の記事が掲載されていたとのこと。

「岐阜・柳ヶ瀬 喫茶店のモーニングサービスの例

エリーゼ 午前中 トースト付 50円

めのう館(やかた) 10時までトースト付、12時までピース1本付 50円

白十字 10時までトースト付、50円、12時までサンドウィッチ 60円」

昭和33年以前に、喫茶店ではモーニングサービスを行っていたことが分かりますね。昭和33年以前に、一宮でモーニングサービスをやっていたかどうかを調べてみたいと思います。

そんな喫茶店ですが、岐阜・愛知以外では、なかなか見つかりません。北陸にときどき仕事に行きますが、ちょっとコーヒーを飲みたいと思っても、なかなか喫茶店がありません。今はコンビニでもコーヒーがありますが、やっぱり、喫茶店に行ってゆっくりコーヒーを飲みたいと思います。

### ② 赤味噌は、好き嫌いがありすぎる!? 赤味噌のお話。

私は赤みそで育っていますが、当然、よそに行くと白みそで、がっかりします。赤だし、味噌おでん、味噌串カツ、どて 美味しいですね。でも、赤味噌は、他県人は、臭い、苦いと、評判が悪いです。

最初は、赤味噌が中国から伝播し日本全国に広まりました。京都の大徳寺には、「大徳寺納豆」というものが売っています。なっとう、といっても赤味噌の味がします。味噌の原形ですね。これが全国に広まりまして、その後、白味噌が全国に広まりました。

白味噌が天下をとって、残ったのが岐阜県的美濃地方、愛知県全域、三重県の一部です。

岐阜県の味噌分布は全国的に見ても珍しいです。この辺は赤味噌ですが、郡上は郡上味噌、飛騨高山は白味噌ですが、赤味噌も売ってしまして、自宅でブレンドしてミックス味噌を作ります。東濃の中津川あたりでは信州味噌が入ってきまして、白味噌です。

赤味噌派と、白味噌派が結婚するとどうなるのでしょうか。お子様ができるとどっちにつくかが楽しみです。

### ③ 花泥棒の話

喫茶店やスナックが開店すると、生花が贈られます。でも、開店当日のそれも午前中で、開店の花はすっかり裸にされています。最後に残るのは、青い葉っぱだけ！「花泥棒」ですね。岐阜ではこれが普通ですね。「花泥棒」たちは、玄関先などに花を飾り、ご近所に得意げに店の開店のことを説明するに違いありません。

でも、これが店の宣伝効果となりえるのです。つまり、店側にとっては、祝いで頂いた花を媒体にして店の宣伝ができ、こんな得はないのです。ただし、他県では「花泥棒」の習慣は見られないので、ご注意ください。全国的には、開店の花は、造花です。

### ④ 岐阜は「鮎菓子」!?

鮎菓子は、岐阜が発祥ということのようです。岐阜市川原町の「玉井屋さん」が有名です。一年中販売されています。玉井屋さんにお聞きしますと、全国トップの生産高を誇っているとのこと。昔、夏場、鶉飼が終わった帰り道に、日持ちがするということで、観光客が買って、家に持って帰ったために広まったそうです。

鮎菓子は京都にもあります。また、鹿児島県にも天文館という有名な繁華街がありますが、そこでも鮎菓子が売られています。

### ⑤ 嫁入りの菓子まき

最近ではほとんど見かけなくなった習慣です。かつては、屋根の上から、二階の窓から、アラレや飴など、ばらばらにまかれていたが、いつしか箱ごと袋ごとまくようなになりました。

見なくなって寂しく思っていましたら、数年前に結婚式に招かれました際、庭付きの結婚式場だったのですが、最後の余興で、新郎新婦が、建物の上から庭に菓子をばら撒いていました。久しぶりだなと思って、写真を撮りました。聞くと、たまにやっているとのこと。

## 3. 東からきた文化、西からきた文化

### ① 鰻の腹開き、背開き

この辺りは腹開きです。金串で刺して、蒸さない。独特の濃さがあっておいしいです。これが西の文化で、岐阜県は西の文化です。

浜松から向こうは、背開きで、竹串で刺し、蒸す。我々からみると、さっぱりして、何か物足りないです。

北陸の方は、ごちゃ混ぜです。理由については、北陸には温泉旅館があるから各地から調理人がきたという説がありますが、それよりもまず鰻を出さない。鰻より旨いとれたての海の肴がありますし、鰻は南方系の魚で日本海へほとんど行かない。鰻専門店も少ないのです。

腹開きと背開きでは、包丁や鰻をさす、釘が違うのだそうです。かなり前、柳ヶ瀬の割烹のご主人から、包丁と釘というのを見せて貰いました。「背開き、やって」っと、ご主人に言ったら、できないという返事でした。

### ② 餅は四角い

この辺は四角いお餅ですが、これは関東系です。丸いお餅は関西系＝滋賀県より西です。北陸は、ごちゃ混ぜです。一応、丸なのだそうです。富山県では雑煮は丸、焼き餅は四角だそ

うです。

### ③ バレンタインデー（東）

これは東から来た文化です。メリーチョコレートが東京で1968年、昭和33年に売り出したところ、見事に失敗しました。だから作戦を変えて、翌年「年に一度、女性から男性へ告白」と宣伝したところ、ブームになりました。以来、男性は、2月14日が近づくと、そわそわします。

### ④ 恵方巻(西)

これは西から来た文化です。節分に、縁起の良い方角に向かって、巻き寿司を食べる習慣です。幕末、明治のはじめころに、大坂から始まりました。一説には、大坂の遊廓からとも言われています。

でも、日本中に広まったのは、今から20年位前です。海苔業者が全国的に広めたいのですが、定着しませんでした。

その後に、あるコンビニが全国的に宣伝し、全国に広がったのです。現在は、コンビニ、スーパーで売られています。豪華な恵方巻きは金粉入り、箔入り2000円～3000円というものもあります。さらには、なんと、ロールケーキの恵方巻もあります。そういう風に、どんどん変わってきました。

今日は、岐阜の独自の文化、西から来た文化、東から来た文化についてお話しました。さあこれから岐阜はどうなるかな、と楽しみながら日々を暮らしております。